

## 大人の言葉と子供の心

皆さんは、親や周りの大人との会話の中で深く心に残っている言葉はありますか。生きる励みとなる温かい言葉、例えば「失敗しても次頑張れば大丈夫」のような言葉を掛けられると、失敗への恐ろしさが柔らぎ、挑戦心も向上するというわけです。

自分の味方であるという認識のある大人から発せられる「バカだね」などの否定の言葉は、「バカだからダメなのか」「バカだからどうしようもないのか」といった負の感情に支配されてしまい、失敗したとき、できない自分が悪い、自分はダメな人間なのだと自身を責めてしまい挑戦を拒んでしまいます。

親など周りの大人からかけられた何気ない一言は、良くも悪くも子供に大きな影響を与え、自己肯定感の高さにも大きく関係してきます。自己肯定感は生きる上で非常に大切で、これが高いと前向きな挑戦心が生まれ、新たな可能性を見つけられます。「大丈夫やってみな」と声をかけるか「あなたには無理でしょ」と声をかけるかでその先が決まります。様々なことに挑戦し、やりたいことを見つけたい楽しい人生を送ってほしいのであれば、明るい声掛けが大切です。

大人の皆さん、疲れている時やイライラしている時、忙しい時などに子供を雑に扱っていませんか。「うるさい」「なんでそんなことも・・・」「下手だね。またやったの」などの人格否定語は、子供の心を深く突き刺って取れないほどの「毒」となってしまうことがあるのです。たとえそんなつもりじゃなかったとしても、言葉の鎖は固く心を縛ります。皆さん、子供が笑顔で過ごせるためにも言葉の見直しをしてほしいと思います。